

和名：ミカンコミバエ種群

学名：*Bactrocera dorsalis* species complex

英名：Oriental fruit fly species complex

### 分布

中国、台湾、東南アジア、南アジア、ハワイ諸島、  
パプアニューギニア、ミクロネシア等

### 寄主植物

イチジク、カキ、カンキツ類、ザクロ、スモモ、トマト、ナス、成熟バナナ、パパイヤ、ビワ、バンジロウ、マンゴウ、モモ等の多様な植物の生果実



図 ミカンコミバエ種群  
成虫（上）、幼虫（下）

### 形態

本種群中のいくつかの種は専門家でも混同するほど形態的に酷似しており、種の同定が困難なことが多い。ここでは本種群の主な形態を示すこととする。成虫は体長約7～8mm。頭部は黄色～黄褐色で顔面の斑紋は円形。中胸の肩瘤、背側板瘤、側縦帯、小盾板は黄色または黄白色。小盾板剛毛は1対。翅はほとんど透明で前縁部および肛脈部のみが黒褐色。腹部は黄色～褐色で第3～5節にかけて暗色の紋があり、雄の腹部第3節両側後縁に縁毛がある。卵は乳白色で、長さは約1.0～1.37mm、径約0.2mmのやや三日月形をした円筒形。幼虫は、体長が1齢で約1.2～1.3mm、2齢で約2.5～5.8mm、3齢で約7.0～11.0mm。各齢とも後方に向かって太くなる細長い紡錘形。1齢は半透明、2齢および3齢の中期までは乳白色を呈すが、3齢後期の老熟期には橙黄色となる。3齢幼虫は、8～15個の気門瘤から成る前気門が前胸に、亜平行状に並ぶ3対の気門孔から成る後気門が尾端表面にある。蛹は長さ約3.8～5.2mmで俵状。色は黄褐色または暗褐色。

### 生態

雌成虫は1箇所に十数個の卵を産むため、大型の果実には数百頭の幼虫が寄生していることもある。本虫は幼果よりも熟果に好んで産卵する。発育速度・温度の調査結果から、南西諸島及び小笠原諸島においては年間7～8世代繰り返すことが可能であると推定されている。雄成虫はメチルオイゲノールに誘引される。3齢幼虫は跳躍する性質がある。

### 被害

本種群が果実に寄生すると腐敗・落果を引き起こし、収穫皆無となることがある。我が国にもかつて南西諸島および小笠原諸島にミカンコミバエ(本種群の一種)が発生していたが、雄除去法により18年間の歳月と50億円の費用を投じて1986年に我が国から根絶された。